

『命を大切に』

北朝鮮ミサイル発射によるJアラートがスマートフォンで鳴り響くたびに、我が家の長男がとび起きてくる。私と妻のはガラパゴスといわれている携帯電話なので、朝から鳴り響くことがないのだが、息子たちのスマホにはその緊急通報が即時に入るようだ。

我が長男は、普段は会社に行く間際まで床の中、起こしてもなかなか起きてこない。その長男が、ミサイルが飛んだとなると朝から大騒ぎをする。かたや二男は、鳴り響いているのは当然わかっているのだが、布団の中から出てこようもしない。逃げ場所なんかないじゃないかといった理由で、そうになったらきっぱりと諦めるといった具合である。

この二人の対照的な様子に、私自信はたしてどちらに近いのかと判断がつかない。

とにかく心配性な長男が、そのうち床下に穴を掘りやしないかと、そっちのほうに気がかかる。

我が家のことはどうでもよいのだが、とうとうミサイルが飛びかってしまう時代となってしまった。これまでは、東日本大震災の大津波と同規模の津波が来たらどうするかということが中心となって、学校では、子どもたちに避難の仕方やどこまで行けば安全なのかということを教えてきた。しかし、今度はミサイルだ。テレビなどの報道等でも、解説者がいろいろと述べているが、どのようなときにどうすればよいかということをしめ細かに教えてやらねばならない。あらゆる場面の想定があるから、その内容は多岐にわたる。

解説者の中には、ミサイルが飛ぶたびにあわてる必要はないといっていた人がいた。なぜなら、日本の上空、または北海道の真上といっても宇宙空間の高さまで行き、ほぼ目指しているのは、日本から遠く離れた太平洋上だからというのである。

だが、心配がぬぐい去れない人たちは、もし何らかの失敗が起こった場合、日本に落ちてこないとは限らない。また、故意に日本に被害をもたらそうと核弾頭を積んで狙い撃ちされる場合だってあるのではないかと、いう。実際に北朝鮮は「アメリカに追隨する日本を焦土と化し沈めてやる」というようなことをいったとかが報道されている。だから、ミサイルが飛んでも大したことではないと楽観視できないというのである。まさに今の時代、いつ、何が起こるかわからないのである。

広島、長崎に落とされた爆弾よりもおよそ千倍の威力をもつといわれる核爆弾が爆発した場合、いったいどこに逃げればよいのか。おそらく、ほぼ助かる可能性はないと思われるが、爆発したところからの距離にもよる。もしかして、離れていれば助かるのでは、ま

たは、よほど丈夫な建物の中にいたとしたら即死はないのではないか、などなど助かる可能性もないのではない気がするが、なんともわからない。アメリカでは、すでに核シェルターが販売されていてよく売れているという。自分の身を守るための手段を考えている人たちが実際にいるのである。

さて、これからの時代を切り拓く子どもたちにどう教えるべきであろう。諦めてしまうのは簡単だが、やはり、万が一に備え生き抜く方法を考えさせるべきであろう。

たとえ可能性が低くても、何とかして生きるんだという選択をさせたい。そのためには、いつ、どこにいても、より安全と思われるところへの避難を考えられるようにあらゆる場面を想定し日頃から心構えをもたせることが必要である。

このことは、ミサイルのことだけには限らない。今や地球の環境の変化によって、我々が脅かされることは数多くある。また、未だかつて経験したことのないような場面に遭遇することも考えられる。たとえば、風水害、台風が来て大雨が降るたびに、河川の氾濫など、今までこんなことはなかったという言葉をよく聞く。また、とてつもない強風、風速60メートルなど経験したことがなかったとかも知る。それ以外にも、大地震、メキシコで起こったような建物の崩壊による被害、また、大きな地割れ、山崩れ、道路の遮断など、近年、世界中でいろんなことが起こっている。

とにかく、これからの将来を背負って立つ子どもたちには、生き抜くんだという強い気持ちをもってもらいたい。すぐに諦めるのではなくて、頭をつかい、気力をみなぎらせてどうにかして生き抜くんだという思いを常に心にえがき続けてもらいたい。そのためには私たち大人は、日頃から、子どもたちに、知らせたり、気づかせたり、教えたり、話し合ったり、考えさせたりなどに努めることが大切である。そのことによって、さらに子どもたちは命の大切さを考えてくれるはずである。